

令和6年度第1回
札幌市営企業調査審議会総会

議 事 録

日 時：令和6年（2024年）9月12日（木）午後3時開会
場 所：札幌グランドホテル 3階 GINSEN

1. 開 会

○山本総務局長 それでは、御案内の時間となりましたので、始めてまいります。

委員の皆様におかれましては、大変忙しい中お集まりいただきまして、誠にありがとうございます。

私、当審議会の事務局を担当いたします、総務局長の山本でございます。どうぞよろしくお願いいたします。

これより後は座って進行してまいります。失礼いたします。

当審議会は、札幌市営企業調査審議会条例に基づきまして、会議の開催には委員の過半数の出席が必要となっております。

本日は、委員総数27名のうち、半数を超える23名の委員に御出席をいただいております。ただいまから札幌市営企業調査審議会総会を開催いたします。

当審議会は、原則として公開で開催されるとともに、会議録についてもホームページ等で公開することといたしておりますので、御了承願います。

それでは、お手元の次第に沿って進めてまいります。

2. 副市長挨拶

○山本総務局長 初めに、副市長の町田から御挨拶申し上げます。

○町田副市長 皆様、本当にありがとうございます。札幌市の副市長の町田でございます。

本来であれば、秋元市長が出席すべきところでございますが、公務が重なっておりますので出席ができませんでしたので、秋元市長に代わりまして私の方から一言御挨拶を申し上げます。

改めまして皆様には、大変お忙しい中、札幌市営企業調査審議会の委員をお引き受けいただきましたことに、厚く御礼申し上げます。ありがとうございます。

さて、皆さまも御承知のとおり、札幌市を含めた地方自治体の財政は大変厳しい状況が続いております。地方財政の健全化が強く求められているところでございます。

札幌市におきましては、令和5年12月に、今後の5年間の行財政運営や予算編成の指針となる「札幌市まちづくり戦略ビジョン・アクションプラン2023」を策定し、持続可能な行財政運営に向けて取組を進めているところでございます。

現在札幌市は出生率の低下や若者の道外転出超過などにより人口の減少局面を迎えております。北海道という形で明治の初めに明治政府による組織的な開発が始まり、そして札幌市となったのは1922年でございます。市制施行という年からは100年を少し超えたわけでございますが、人口197万をピークに現在196万少しでございますが、いよいよ札幌の人口も減少局面を迎えております。2060年にはこのまま進みますと人口160万を切ると予想するところでございます。人口の減少は札幌市の経済規模の縮小、税収の減少、さらには老朽化した都市基盤の更新などにより、札幌市の財政状況はより一層厳しくなることが予測されているところでございます。

このような状況下にあっても、市民の日々の暮らしと密接な関係にある交通、水道、下水道、そして、病院の各市営企業は、多様化する市民の皆様のニーズや社会経済の変化に柔軟に対応できるよう、限られた経営資源を効率的、効果的に活用することが求められるところでございます。

委員の皆様におかれましては、この審議会におきまして、それぞれのお立場から活発な御審議を賜りますよう、お願いを申し上げます。私どもも、御審議いただいた結果を、健全な経営はもとより、効率的で効果的な事業展開に結びつけていきたいと決意するところでございます。

最後に、委員の皆様の御健勝と本審議会の実り多い成果を祈念申し上げまして、札幌市からの御挨拶とさせていただきます。よろしくお願いたします。

3. 委員及び理事者紹介

○山本総務局長 続きまして、委員の皆様を御紹介いたします。

今年は、2年に1度の改選期となっております。本日御出席の皆様につきましては、引き続き委員をお願いしている方、それから、新たに委員になられた方もいらっしゃいます。

お手元の資料1の委員名簿の順に、私から見て左手前の席から順に御紹介申し上げます。委員の皆様におかれましては御着席のままで構いません。

朝野委員です。

阿部委員です。

石田委員です。

上原委員です。

白井委員です。

祖母井委員は所用により欠席となっております。

大金委員です。

大橋委員です。

岡田委員です。

押木委員は所用により欠席となっております。

加藤委員です。

金子委員は所用により欠席となっております。

駒ヶ嶺委員です。

紺野 裕和委員です。

今野 喜文委員です。

佐藤委員です。

白崎委員です。

武村委員です。

峪委員です。

野中委員は所用により欠席となっております。

馬場委員です。

林委員です。

星原委員です。

松浦委員です。

山田委員です。

山本委員です。

吉田委員です。

続きまして、本日出席している局長職を御紹介申し上げます。

初めに、下水道河川局長の小泉です。

続きまして、交通事業管理者の芝井です。

続きまして、水道事業管理者の村瀬です。

続きまして、病院局経営管理室長の川本です。

以上でございます。

4. 会長、副会長の選出

○山本総務局長 それでは、本審議会の会長及び副会長の選出に移ります。

先ほども申し上げましたが、今年は2年に1度の委員の改選期となっております。そこで、改めて会長、副会長を選出することになりますが、お手元の資料の2、条例第5条によりますと、会長、副会長を各1名置き、委員の互選によって定めることとなっております。

どなたか御意見はございませんでしょうか。

なければ、事務局の案を提示してもよろしいでしょうか。

（「異議なし」と発言する者あり）

○山本総務局長 恐れ入ります。

それでは、事務局の案をお示しいたします。

これまでの審議の御経験等を踏まえまして、会長には今野喜文委員に、副会長には石田委員にお願いしたいと考えておりますが、皆様、いかがでしょうか。

（「異議なし」と発言する者あり）

○山本総務局長 ありがとうございます。

事務局案に賛成ということでございますので、今野喜文委員には会長を、石田委員には副会長をお願いしたいと存じます。

今野会長、石田副会長は、恐れ入りますが席をお移りくださいますようお願いいたします。

〔会長・副会長は所定の席に着く〕

それではここで今野会長に御挨拶とその後の議事運営につきましても、お願い申し上げます。

ます。

○今野会長 ただいま、会長を務めさせていただくことになりました北海学園大学の今野と申します。皆様方の御協力のもと、スムーズな議事運営、職務を果たしたいと思っております。御協力のほどよろしくお願いいたします。

○石田副会長 北海道科学大学の石田と申します。

先ほど拝命いたしましたので、副会長を務めさせていただきます。会長の審議進行についてしっかりサポート、補佐していきたいと思っておりますので皆様よろしくお願いいたします。

5. 今後の運営方針の審議

○今野会長 ありがとうございます。それでは早速議事に入りたいと思っております。始めに、今後の審議の進め方についてお諮りをさせていただきたいと思っております。

従来から、各事業の運営に関する審議につきましては、効率的に行うため、事業ごとに部会を設けまして審議を行ってまいりました。今後につきましても、それぞれ交通部会、水道部会、下水道部会、病院部会の合計4つの部会を設けた上で、審議を行うことが適当ではないかと思っておりますが、いかがでしょうか。

(「異議なし」と発言する者あり)

○今野会長 ありがとうございます。

それでは、従来どおり、各部会で審議をすることとさせていただきたいと思っております。

また、各委員の部会の所属でございますけれども、お手元にあります部会所属案の説明を事務局からお願いしたいと思います。よろしくお願いいたします。

○山本総務局長 事務局案について御説明いたします。

お手元の資料のとおり、お一人に一つないし二つの部会を割り振っております。学識経験者の委員の方は、御専門に基づいた部会を割り振っております。各団体から御推薦いただいた委員の方で、前期から継続して委員を務めていただいている方は従前から属していた部会と同じ、新任の方は、各団体の前任の方が属していた部会と同じとしております。市民委員の方につきましては、応募の際に御提示をいただきました御希望を考慮しつつ、全体の人数バランス等を見て割り振りをしたところでございます。

以上でございます。

○今野会長 ありがとうございます。それでは、事務局案を確認させていただきたいと思っておりますが、各委員におかれましても、内容についてお手元の資料を御確認いただければと思います。

[各委員は、資料を確認する]

○今野会長 私が見たところ、各部会とも市民委員の皆様、専門性のある方などが非常にバランスよく配置されているんじゃないかと思っております。会長案としては、この名簿のとおりでお願いしたいと考えておりますが、いかがでしょうか？

(「異議なし」と発言する者あり)

○今野会長 ありがとうございます。それではそのように決定させていただきたいと思
います。

続きまして、今後の部会の日程についてでございますけれども、予算、決算などの節目
の時期のほか、各事業の状況に応じて適時開催することとしたいと思います。

また、総会の開催につきましては、定例ではなくて、必要に応じて開催するというこ
とでよろしいでしょうか。

(「異議なし」と発言する者あり)

○今野会長 ありがとうございます。それでは、そのようにさせていただきたいと思
います。

6. 事業説明（令和6年度予算の概要）

○今野会長 続きまして、事業説明に入らせていただきたいと思います。

この度、新しく委員に就任された方々もいらっしゃいます。皆様に共通の認識を持っ
ていただいて、今後の審議に一定の方向性を持たせるため、今年度予算を中心とした各事業
の概要説明をしていただきたいと思います。

なお、御質問については4事業全ての説明が終わった後に一括してお受けしたいと思
います。

初めに、交通事業について御説明をお願いしたいと思います。よろしくお願
いいたします。

○芝井交通事業管理者 改めまして交通事業管理者の芝井でございます。

お手元に配布されております資料のうち、資料3に基づいて交通事業予算の概要につ
いて御説明をさせていただきます。

資料の1ページを御覧ください。はじめに、路面電車事業に係る「軌道整備事業会計」
についてでございます。

予算の内容の前に事業の沿革について少し触れますけれども、路面電車は1927年の市営
交通の発足以来、90年以上の長きにわたって、市民の皆様、札幌を訪れる観光客の皆様に
御利用いただいているところです。

2015年には都心線の開業によりまして、いわゆるループ化を行ったほか、2020年からは
上下分離による経営を導入したところでございます。

この上下分離方式におきましては、「下」にあたる軌道施設の整備を交通局が担って
おりまして、「上」にあたる旅客の運送を札幌市交通事業振興公社が担っているという仕組
みになってございます。

それでは、予算総括表の軌道整備事業会計を御説明いたします。以後の予算額につ
きましては、100万円未満を切り捨てて御説明させていただきますことと、お時間の都合で要
点のみの説明とさせていただきますので御了承いただきたいと思います。

はじめに、営業活動に関する収支を表します収益的収支でございます。

施設使用料を中心とした収入総額は中段網掛け①のとおり、16億4,800万円、また支出総額につきましては網掛け②のとおり、17億2,500万円で、収支差引はその横③のとおり、7,700万円の赤字となりまして、前年度と同水準の状況でございます。

次に、施設への投資などに関する収支を表します資本的収支でございます。収入総額は表の下段網掛け⑤にありますとおり、21億5,100万円となり、支出総額は網掛け⑥にありますとおり、24億8,400万円でありまして、収支差引はその横網掛け⑦のとおり、3億3,300万円の赤字ということでございます。これは前年度から8,200万円の悪化となりますが、主に一般会計からの借入金の償還金が新たに始まるということによるものでございます。

続きまして、「資金の状況」について御説明申し上げます。

ここまで御説明した収支はいずれも赤字でありますけれども、現金支出を伴わない減価償却費等や、この表の下から2段目に参考表記しております一般会計からの長期借入金残高を加えた結果、最終的な資金残は表の右下網掛け⑨というところにありますけれども4億4,300万円になるものと見込んでいるところでございます。

よろしければ2ページ目の業務量の表を御覧いただきたいと思っております。

表の上段の車両数と走行キロ数は、前年度と変更がございません。その下の路面電車輸送人員であります。年間で897万3,000人、乗車料収入につきましては、16億2,700万円を見込んでいるところでございます。

3ページの主要事業を御覧ください。

ここでは建設改良事業費を私どもとしては整理しておりますが、6年度の建設改良事業では、主に電車事業所改良建築工事や低床車両の製造などを行います。このうち電車事業所の建替えについては、令和8年度に完成し、総事業費は43億円を見込んでいるところでございます。

次におめくりいただきまして4ページ目、これまでの傾向、主な指標をグラフ化しているところですが、そこを御覧いただきたいと思っております。

左上の(1)は1日平均乗車人員及び乗車料収入に係る推移のグラフでございます。いずれも、コロナ禍において大きく落ち込みましたけれども、2年度以降は、乗車人員の回復、あるいはSAPICAポイントの見直し等によりまして増加基調になっているところが御覧いただけるかと思っております。

また、(3)、左下の企業債についてですけれども、先ほど触れた電車事業所の建替え等によりまして、折れ線グラフにありますとおり、残高が増加してきている状況でございます。

以上が、軌道整備事業会計の6年度予算の概要でございます。

続きまして、5ページ目を御覧いただきたいと思っております。ここからは、地下鉄事業に係る高速電車事業会計についてでございます。

まず事業の沿革についてですけれども、地下鉄は1971年に南北線の北24条と真駒内間の開業からスタートいたしまして、その後1976年に東西線、1988年に東豊線を開業し、更に

各路線の延伸などを経て、現在は全長48km、49駅で営業を行っているところでございます。

それでは予算の概要についてですが、総括表の方を御覧いただきたいと思っております。

まず、収益的収支についてです。収入では、乗車料の増加を見込む一方で、営業外収益の一般会計補助金の減少等によりまして、収入総額としては中段左側の方の①にありますとおり前年度比9億6,800万円減の508億4,000万円となります。また、支出総額につきましては網掛け②のとおり、437億4,000万円で、収支差引は網掛け③のとおり、71億円の黒字となりまして、この数字は前年度から見ると15億7,100万円の悪化ということとなります。

次に、「資本的収支」でござります。収入総額は、表の下段網掛け⑤にありますとおり、194億2,500万円でありまして、国庫補助金や一般会計補助金の増額などによりまして、前年度より24億9,600万円の増加を見込んでおります。また支出総額は網掛け⑥のとおり、361億5,200万円でありまして、収支差引はその横網掛け⑦のとおり、167億2,700万円の赤字となります。これは前年度から16億5,800万円好転しておりますけれども、主に企業債償還金の減によるものでござります。

続きまして、同じ表で資金の状況を御説明申し上げます。ただいま御説明いたしました当年度の収支に、減価償却費等を加えた結果、最終的な資金残は、表の右下網掛け⑧にありますとおり、53億1,600万円の資金の見込みでござります。

よろしければ6ページの業務量を御覧いただきたいと思っております。

表の下から2行目、輸送人員の1日平均ですが、令和6年度は59万6,000人、その下にあります乗車料収入は423億5,400万円を見込んでいるところでござります。

7ページの主要事業のところを御覧いただきたいと思っております。

6年度の建設改良事業費では、主に南北線さっぽろ駅の改良や南車両基地等の耐震改修工事、さらには、下の方にありますけれどもクレジットカードによるタッチ決済対応に係る改修などを進めていきます。

南北線さっぽろ駅の改良については令和10年度に完成して供用を開始する予定となっております。総事業費は110億円を見込んでおります。また、南車両基地の耐震改修工事については令和15年度に完成を見込んでおりまして、クレジットカードによるタッチ決済につきましては来年度春に実証実験を開始したいと考えております。

続きまして、8ページのこれまでの傾向を御覧ください。

(1)は1日平均乗車人員及び乗車料収入の推移であります。こちらも路面電車と同様コロナ禍で大きく落ち込みましたけれども、令和2年度以降は、乗車人員の回復やSAPICAポイントの見直し等によりまして増加基調となっております。(3)の累積欠損金については過去からの営業成績の累計ということですが、減少傾向を保っているところではあります。なお1,900億円近い累積の赤字があり、厳しい経営状況が続いております。(4)の企業債につきましては減少傾向を維持しておりますが、先ほど申し上げました、今後、南北線さっぽろ駅の改良工事など大型工事を控えておりますので注視していく必要がある

と考えております。

路面電車、地下鉄ともに、令和元年度に発生した新型コロナウイルス感染症の影響から回復傾向にはあるのですが、電力料金や資材価格の高騰、さらには今後の人口減少なども見据えると、依然として厳しい状況が続くものと認識しております。

交通局といたしましては、このような状況にありましても、安全で安心な公共交通を、しっかりと次の世代に向けて継承していくことができるよう、努めてまいります。

以上で令和6年度交通事業予算の概要についての御説明を終わらせていただきます。

○今野会長 どうもありがとうございました。

続きまして、水道事業について御説明をお願いいたします。

○村瀬水道事業管理者 水道事業管理者の村瀬でございます。

資料4になります。水道事業会計について御説明いたします。金額は、100万円未満を切り捨てて御説明いたします。

資料めくっていただきまして、お手元の資料1ページ予算総括表を御覧ください。網掛け部分を中心に、御説明申し上げます。

はじめに、表の上段、収益的収入及び支出の①収益的収入でございますけれども、464億1,700万円で、前年度から3億5,100万円の増加となっております。

この内、収入の約9割を占める給水収益は、3億2,400万円の増加を見込んでおります。これは、コロナ禍の回復に伴って外出自粛の緩和が進むことで、料金単価の低い家事用の使用水量が減る一方、単価の高い家事以外用の使用水量が増える見込んだものであります。

次に、表の中央、②の収益的支出でございますけれども、386億3,800万円で、前年度から18億1,300万円の増となっております。増加の主な要因は、営業費用のうち、運営管理費において、配水管移設などの増加を見込んだことによるものです。

以上の結果、右端の方にあります③の収益的収支差引は77億7,900万円で、矢印下の当年度純利益は53億4,600万円となる見込みでございます。

続きまして、表の中段の資本的収入及び支出のうち、まず真ん中にあります⑤、資本的支出でございますが、330億2,600万円で、前年度から3億7,000万円の増となっております。これは、石狩西部広域水道企業団への出資金の増加などによるものです。

次に、これら資本的支出の財源ですが、その左側の④の資本的収入94億3,500万円で、前年度から1億3,700万円の減となっております。これは、企業債借入額の減少などによるものです。

以上の結果、右側の端の方にあります⑥資本的収支差引は、235億9,100万円の収支不足となりますが、これを損益勘定留保資金等で補填した結果、右下の⑦資金残高でございますが、62億3,400万円となり、前年度から71億8,300万円の減となっております。

なお、資金残高のうちすぐ下の「水道施設更新積立金」は44億円となっており、建設改良費の財源として取り崩すため、前年度から32億円の減少を見込んでおります。

続きまして、ページをめくっていただきまして2ページ目の業務量です。

網掛け部分の上段、給水人口ですが約195万9,000人で、前年度の当初予算から約5,700人の減を見込んでおります。

下段の年間有収水量は約1億7,700万立方メートルで、前年度の当初予算から0.5%の増を見込んでおります。この水量の増加は、外出自粛の緩和を見込んだものです。

続きまして、3ページ目でございます。財政状況の推移を御覧ください。

図表1の給水収益でございますが、平成27年度以降、概ね横ばいで推移しておりますが、令和6年度は若干の増加となっております。

図表2の建設改良費は、令和2年度以降、白川浄水場改修事業など大型建設改良事業の実施により増加が続いております。

図表3の資金残高ですけれども、近年の建設改良費の増加を受けて令和3年度をピークに減少傾向となっております。

最後、図表4の企業債残高ですけれども、平成27年度以降は減少を続けておりましたが、令和6年度は前年度に引き続き微増となるものでございます。

最後のページになりますが、4ページ目の主要事業を御覧ください。

水道局では、平成27年度から10年間を事業計画とする「札幌水道ビジョン」において、5つの重点取組項目を設定していますので、その項目に沿って御説明します。

まず、「重点取組項目1 水源の分散配置と水質の安全性の向上」の①「豊平川水道水源水質保全事業」では、放流調整機能を有する管理センター等の工事を進めています。供用開始は令和7年度を予定しています。

②の「石狩西部広域水道企業団への参画」は、企業団が行う当別浄水場の増設工事などに対する出資金などを支出するものです。同企業団からの受水開始についても、令和7年度を予定しています。

続いて、「重点取組項目2 施設の更新・耐震化と危機管理体制の強化」ですが、①の「白川浄水場改修事業」では、既存浄水棟の改修時に不足する給水能力を補うため、第4浄水棟の新設工事などを進めているところです。

②の「白川第1送水管更新事業」は、白川浄水場から平岸配水池に水を送る白川第1送水管の経年劣化が進み、耐震性も不足していることから、耐震管を用いて更新するため、令和6年度は、実施設計と工事発注を行う予定です。

③の「配水管更新事業」ですが、経年劣化による漏水リスクの高い配水管を耐震性のある管に更新するもので、令和6年度は約40kmの更新を予定しています。

④の「配水施設耐震化事業」は、硬石山配水池の工事を進めるとともに、南沢第2ポンプ場・配水池の工事発注を予定しています。

⑤の「配水幹線連続耐震化事業」は、基幹配水池から配水区域末端までをつなぐ口径400mm以上の基幹管路の耐震化を進めるもので、令和6年度は清田第2幹線や北幹線など1.6kmを整備いたします。

⑥の「災害時重要管路耐震化事業」は、配水幹線の分岐から、医療機関や小中学校などの指定避難所へ向かうまでの配水管を耐震化するもので、令和6年度は医療機関7か所、指定避難所4か所への耐震化を行います。

次に、ページ右上の「重点取組項目3 利用者とのコミュニケーションの充実」の「水道事業に対する理解促進」は、水道記念館の運営や水道事業のPRイベントなどを通して様々な情報発信を行うものです。

次に、「重点取組項目4 経営基盤の強化と連携の推進」の「札幌水道を支える人材の育成」では、各種局内研修を実施するほか、より専門的な知識や技術を習得するため、外部研修の受講や資格取得の取り組みを進めます。

最後に、「重点取組項目5 エネルギーの効率的な活用」の「環境に配慮した事業運営の推進」では、豊平川水道水源水質保全事業で建設したバイパス水路の高低差約70mを利用した水力発電設備の整備を、前年度から継続して進めます。

説明は以上でございます。

○今野会長 どうもありがとうございました。続きまして、下水道事業について御説明をお願いしたいと思います。

○小泉下水道河川局長 下水道河川局長の小泉でございます。

私からは令和6年度下水道事業会計予算の概要について、御説明いたします。

お手元の資料5の1ページ目「1 予算総括表」を御覧ください。

読み上げる金額につきましては、100万円未満を切り捨てて御説明いたします。

まずは、表の上段、収益的収入及び支出について、左側の収入から説明いたします。

6年度予算はA欄①のとおり、529億200万円となり、5年度と比べ、16億2,900万円の増加となっています。

このうち、営業収益の下水道使用料につきましては、6年度予算が209億5,300万円となり、5年度予算と比べ5億5,600万円の増加となっています。

これは、使用料の5年度実績が、業務用の回復によりまして209億円となる見込みであることから、6年度も同額を見込んだものでございます。

続いて、支出の6年度予算はC欄②のとおり、521億3,500万円となりまして、5年度予算と比べ、3億6,300万円の増加となっております。

なお、営業費用の維持管理費につきましては、6年度予算が229億1,200万円となり、5年度とほぼ同水準を見込んでおります。

この結果、収支差引は表の右側E欄③のとおり、7億6,700万円となり、消費税を除きますと14億9,900万円の純損失となります。

次に、表の下段、資本的収入及び支出を御覧いただきたいと思っております。右側の支出から先に御説明いたします。

6年度予算はC欄④のとおり502億5,000万円であり、5年度予算と比べ、53億1,900万円増加しております。

これは主に、企業債の償還金が17億9,800万円増加するほか、都心アクセス道路整備に伴う管路の移設などの実施によりまして、建設事業費が増加することによるものでございます。

続いて、表左側の収入については、A欄⑤のとおり330億6,400万円となり、5年度予算と比べ、52億7,300万円の増加となっております。

このうち、企業債につきましては、6年度予算が270億5,800万円となり、5年度予算と比べ65億400万円増加となっております。これは、建設事業費の増加に伴い、その財源となる企業債の借入を増やしたことによるものでございます。

この結果、収支差引は、表の右側E欄の⑥のとおり171億8,600万円の不足となりますが、これを当年度分・過年度分の内部留保資金等で補填することで、6年度末の資金残は、E欄の一番下⑦のとおり32億7,800万円となり、5年度予算の資金残43億800万円と比べ、10億3,000万円の減少となっております。

続きまして、2ページ目の「2 業務量」を御覧ください。

網掛けした主な項目について説明いたします。管路総延長は、8,333kmで、5年度予算と比べ、7.6kmの増加となっております。

料金収入の対象となる年間有収水量は、5年度予算と比べて約3%の増加を見込んでおります。

続きまして、3ページ目の「3 主要事業」を御覧いただきたいと思っております。

まず、表左側、施設の維持管理に関する業務については、総費用229億1,300万円を見込んでおります。

主な事業ですけれども、管路施設の維持管理につきましては、施設の長寿命化を目的としたテレビカメラ調査219kmのほか、管路の点検、修繕等を実施してまいります。

その下の処理施設の維持管理につきましては、安定した下水処理を継続するため、引き続き運転管理の委託や修繕工事等を実施してまいります。

次に、表の右側「施設の建設に関する事業」については、総事業費318億3,400万円を見込んでおります。

主な事業内容ですが、「下水道施設の再構築」では事業費が293億7,100万円となっております。これは総事業費のおよそ9割を占めております。管路関係では、都心アクセス道路整備に伴う管路の移設や老朽管の改築など合計28.5kmの整備を行います。

施設関係では、ポンプ場3か所、西部スラッジセンターと水再生プラザを合わせて10か所の設備改築を行います。

その下の「災害に強い下水道の構築」では、雨水対策として、近年の集中豪雨を踏まえ、新道東地区や中の島地区で雨水拡充管の整備、山の手地区で雨水拡充管の実施設計を行うほか、窪地などの浸水に弱い地区への対策としまして、雨水を周辺の余裕のある幹線へ導水する管路等の整備を行います。また、地震対策として、マンホールやポンプ場の耐震化工事、水再生プラザの耐震診断等を行います。

「公共用水域の水質保全」では、合流改善事業の完了に伴い、その評価に係る調査検業務を行います。最後に「下水道エネルギー・資源の有効利用」では、下水熱を利用したロードヒーティングの実施設計や東部水再生プラザでの融雪施設の新設などを進めて参ります。

なお、4ページ目以降に、主要事業のイメージ図としまして、都心アクセス道路整備事業に伴う管路の移設工事、老朽管の改築、雨水拡充管の整備を掲載しております。

4ページ目の左側は、都心アクセス道路整備に伴う管路の移設工事に関する図でございまして、上段の図①は工事の全体を表した図となります。

下段の2つの図は本工事で使用する工法の施工イメージ図でございまして、左側の②のシールド工法は、長距離の施工に適しており、シールドマシンが地中を掘り進みながら管路を組み立てていく工法になります。③の推進工法は、短距離の施工に適しておりまして、管ごと掘進機を押して掘り進め管路を造る工法となります。

いずれも地中を掘り進めながら下水道管を設置する工法で、騒音や振動等の生活への影響が少ないものになっています。

次に、右側の写真3枚は老朽化した管を管更生工法により改築したときの写真となります。管更生工法は老朽化したコンクリート管の中に樹脂製の管を構築する工法でございまして、他の工法と比べ安価で施工時間も短いことから老朽管改築時に広く用いられる工法となっています。

続いて5ページ目です。雨水拡充管のイメージ図でございまして、整備箇所である新道東地区と中の島地区の位置図を示したものとなっております。

最後に、6ページ目の「4 5年間の傾向」を御覧ください。

図1の下水道使用料につきましては、徐々にコロナ前の水準まで回復しつつありますが、今後は人口減少などもあり増収は見込めない一方で、図2の維持管理費、図4の建設改良費については、施設の老朽化に加え、電気料金の高騰や労務単価、資材費の上昇などもあり、今後も増加傾向が続く見通しです。

このため、資金残高につきましては、図4の実線折れ線グラフのとおり減少が続いており、企業債未償還残高につきましても点線の折れ線グラフのとおり増加が見込まれていることから、強い危機感を抱いているところでございます。

こうしたことから、健全な経営を維持するため、電気使用量の抑制や効率的な修繕による設備の延命化、管路の点検修繕の一体発注による効率化など、徹底したコスト削減に職員一丸となって取り組んでいるところでございまして、今後も危機意識を緩めることなく、効率的な運営に最大限の努力をして参りたいと考えております。

以上、令和6年度下水道事業会計予算の概要につきましても説明を終わります。

○今野会長 どうもありがとうございました。最後に病院事業について御説明をよろしくお願いたします。

○川本経営管理室長 病院局経営管理室長の川本でございます。

お手元の資料6に基づきまして、令和6年度病院事業会計予算の概要を説明させていただきます。なお、金額につきましては、100万円未満を四捨五入のうえ申し上げます。

初めに、表紙をおめくりいただき1ページ目の「1.総括表」を御覧ください。

まず、上段の収益的収支でございます。

収益的収入の合計につきましては、左側網掛け部分①のとおり、259億7,600万円を計上しており、前年度に比べて2億8,500万円の減となっております。これは、診療収益が234億6,300万円と、前年度に比べ15億9,200万円増加している一方で、新型コロナウイルスの5類化に伴い、令和5年度は19億5,400万円あった病床確保補助金が、制度の終了により、令和6年度はゼロになったことなどによるものでございます。

次に、収益的支出の合計につきましては、中央網掛け部分②のとおり、269億5,200万円を計上しており、前年度に比べて7億4,800万円の増となっております。これは、給与費のほか、令和5年度に更新した電子カルテシステムの更新に伴う減価償却費の増加などによるものでございます。

以上、収益的収入259億7,600万円、収益的支出269億5,200万円、収支差引は網掛け部分③のとおり9億7,600万円のマイナスとなっております。

続きまして、下段の資本的収支でございます。

資本的収入につきましては、左側網掛け部分④のとおり、当院が借り入れる予定の企業債や、企業債の償還金に対する一般会計からの負担金などで、合計21億2,300万円を計上しております。

次に、資本的支出につきましては、中央網掛け部分⑤のとおり、建設改良費や企業債償還金などで、合計31億4,200万円を計上しております。

この結果、右側網掛け部分⑥の資本的収支差引では、10億1,900万円の収支不足となるものでございます。

次に、資金の状況でございますが、右側網掛け部分⑦のとおり、令和6年度単年度としては、13億3,700万円の資金減が見込まれ、その下の前年度までの資金残19億3,500万円と合わせまして、令和6年度末では、網掛け部分⑧のとおり、5億9,800万円の資金残となっております。

おめくりいただきまして2ページ目を御覧ください。令和6年度の業務量について、御説明いたします。

令和6年度の病床利用率は、左側網掛け部分①のとおり、全病床672床に対して81%と見込んでおります。

年間の延べ入院患者数は、網掛け部分②のとおり19万8,677人を見込んでおり、新入院患者数は③のとおり1万7,330人、平均在院日数は④のとおり10.5日となります。

令和5年度予算と比べますと、延べ入院患者数は10.7%の増加を見込んでおります。

次に、年間の延べ外来患者数でございますが、網掛け部分⑤のとおり、25万6,578人を見込んだところでございます。

おめくりいただきまして、3ページ目を御覧ください。主要事業といたしまして、建設改良費の内訳をお示ししております。

まず、資料の左側、病院整備費につきましては、2億2,700万円を計上しており、空調設備ポンプ等更新工事などを予定しております。

次に、資料の右側、医療機器購入費等につきましては、8億6,700万円を計上しており、手術支援ロボット、ダヴィンチXi（エックスアイ）の更新を予定しております。

左下の表は、これら建設改良費計10億9,400万円の財源でございます。このうち、企業債は8億2,800万円となります。

おめくりいただきまして、最後になります、4ページ目を御覧ください。経営状況にかかる主な指標の過去5年間の傾向をまとめております。

左上の入院患者数の推移と右上の病床利用率でございますが、新型コロナウイルスの影響によって減少した入院患者数が、徐々にではありますが回復傾向にあることをグラフで示しております。

次に、左下の外来患者数の推移でございますが、令和5年度予算では、入院患者数の増加に合わせて、外来患者数の増加を見込んでおりましたが、令和6年度予算では、原則として、かかりつけ医からの紹介制を市立病院は採っているものですから、その影響によりまして減少を見込んでいるという状況でございます。

また、右下のグラフでは、経常収支及び資金残の推移を示しており、令和6年度の資金残は先ほど御説明のとおり約6億円となっております。

資金残の減少につきましては、これを回復させるべく、収支改善に努める所存でございます。

令和6年度予算の概要について、病院局からの説明は以上でございます。

○今野会長 どうもありがとうございました。

7. 質 疑

○今野会長 それでは、ただいまの4つの事業の説明に対して、御質問をお受けしたいと思っておりますけれども、まずはどの事業に対する質問なのかを明らかにされたうえで御発言いただきたいと思っております。御質問のある方は挙手いただきたいと思っております。いかがでしょうか。

○阿部委員 北海道ビルディング協会の阿部と申します。どうぞよろしく願いいたします。

3点ございまして、札幌市交通事業に二つと水道事業に一つの計三つです。今回から参加なので質問が稚拙になるかもしれませんが御容赦ください。

まず、交通事業の軌道整備事業会計についてですが、経常収支で営業収益8億7,900万円で、ほぼ同じような金額で営業外収益7億6,300万円とありますが、多分営業外収益がなければこの事業ができないのかなと思いましたが、この営業外収益とは何ですかというのがまず一つです。

それと、2015年にループ化されていると思うのですが、ループ化から9年経ち、収支的にどうだったのかというところを参考までにお聞きしたいです。

次に水道事業です。これは病院関係にも言えるのかもしれませんが、資金残高が急激に減って行って、あくまで素人の思い付きになりますが、令和7年に企業債を借りないと回らないと思いますがその点を教えていただきたいです。

○今野会長 どうもありがとうございました。それでは交通事業の方からよろしくお願ひします。

○芝井交通事業管理者 改めまして交通事業管理者の芝井でございます。

今2点御質問いただきました。まず一つ目の営業外収益が大きいということですがけれども、この大宗を占めているのは、どの事業も同じなんですけれども、整備事業に伴って国庫補助金や一般会計補助金をいただく際に、それを減価償却と似たような仕組みで、収入として償却しているもので、それが大宗を占めています。従って会計上は現金収入じゃないということになります。現金の支出を伴わない支出が減価償却なのですけれども、現金の収入を当年度に伴わない、ある一時期においてどんともらったものを例えば10分の1ずつ償却しているとか、そういうことで計上しているものであります。

それから、路面電車のループ化に伴う収支ということですが、ループ化してから乗客は増えているのですが、それが直接全部ループ化によるものなのか、あるいは沿線マンション開発なども進んでいるので、そういった要因もあって、一概には言えないんですけれども、乗客数はコロナ禍を除いては順調に伸びているという状況でございます。

以上でございます。

○今野会長 ありがとうございます。三つ目、水道事業の方よろしくお願ひします。

○村瀬水道事業管理者 水道事業管理者の村瀬です。

資金残が減ってきております。来年度予算はこれから編成でありますし、新しい水道ビジョンが来年度から10年間スタートします。その数字をこれから出すということになるのですけれども、委員御指摘のとおり、来年度はこの起債をそれなりに増やしていかないとならないと考えています。建設改良費も少し増やしていかなければならない、色々老朽化したので更新していかなくやならないということで費用が掛かりますので、御指摘のとおり起債額は増えていく見込みと考えております。

以上でございます。

○阿部委員 わかりました。ありがとうございます。

○今野会長 ありがとうございます。他どうでしょうか。

○山本委員 病院事業のことで確認させていただきたいのですが、資料最後のページにございます病床の稼働率の推移の中で、今年度は81%見込んでいるというところがありまして、左下の方には延べの外来患者数とかその辺のところも出ているところなんですけれども、昨年に比べてかかりつけ医からの紹介のために外来患者数の減少ということで見込まれていて、外来の患者数は減少するんですけども、病床の稼働率は上がるということで、

そういった考え方、どういう見込みでそうなっているのかを教えてくださいありがとうございます。

○川本経営管理室長 ちょっとわかりにくい部分があったかもしれません。病床の利用率についてはベッドコントロールを徹底して効率よく回していくことで上げていこうという要素もございます。ですからまず外来で患者さんが入ってそして入院していくというのが一番一般的な流れではあるのですが、その中において入院のベッドコントロールを良くして病床利用率を上げていくという考えでございます。患者さんの受入につきましては、かかりつけ医の紹介状を必要とする原則紹介制をとっており、直近では外来が減少傾向にあることから、この傾向を反映させました。また入院につきましては、新型コロナウイルス感染症の影響からの回復を見込んでおります。かかりつけ医の先生方に対しては、私どもの方から訪問して状況等説明し、市立病院に紹介していただくような営業活動もしっかり行っていきたくと思っています。そのため、一見すると確かに外来が減るのに入院が増えて病床利用率が上がるっていうのがちょっと不思議に感じられたかもしれませんが、一つ一つの要素としてはそのような考え方に基づいて数字を出しているということとでございます。

○今野会長 よろしいでしょうか。ありがとうございます。他いかがでしょうか。

○駒ヶ嶺委員 市民委員の駒ヶ嶺です。市民委員ということで人について2点お尋ねしたいと思います。一つ目ですが、交通局の軌道整備の方になります。支出の方で人件費が令和5年度から令和6年度にかけて4,300万円下がっているという形になっております。昨今ニュースでも路面電車の運転手不足ということで、人を募集しても集まらない大変な状況だと聞いておりますが、この人件費削減の理由についてお尋ねしたいと思います。

続きまして水道局の方にお尋ねいたします。4の主要事業の方で重点取組項目の4の経営基盤強化と連携の推進ということで、水道を支える人材の育成とうたわれております。このように人の育成という形で取り組んでいる中で、現在人手不足など非常に大変な中だと思われませんが、こちらの育成の成果などについてお尋ねしたいと思います。

○芝井交通事業管理者 軌道整備事業の人員減ということですが、この会計は冒頭私上下分離していると申し上げましたが、運転手などの人件費については上下の「上」の方で計上しています。この会計は軌道整備に係る事業なので、整備に係る人員ということで、概ね20~30人の人件費を計上しているのですが、整備に係る人手が少し減ったということです。なんで減ったかというのは、派遣の引き上げなどによって人件費、頭数が減ったということです。

○今野会長 ありがとうございます。続いて水道局よろしく願います。

○村瀬水道事業管理者 水道事業管理者の村瀬です。

水道を支える人材ということで、水道局の職員に対して研修の計画を定めまして、様々な研修を行っております。成果という御質問で、なかなか点数付けという定量的な評価は難しい所であるので、定性的なことになり恐縮ですが、日々水道を稼働しなければ

ならないので、例えば漏水が起こったときにどういう対応をすればいいですか、工事も確実に配水管を工事業者の方と一緒に進めていくと、あるいは浄水場の日々の維持管理も常に点検したり、異常があったときにどうするか、あるいは災害時にどういった行動をとるのかというマニュアルを揃えたりして、それを常にとということではないですけども、折々の計画を立てて実施して、今現在の自己評価にはなりますけれども安定的に水道を供給しているのかなという思いでおります。以上でございます。

○今野会長 ありがとうございます。駒ヶ嶺委員よろしいですか。

○駒ヶ嶺委員 はい。

○今野会長 佐藤委員よろしく申し上げます。

○佐藤委員 2点お尋ねします。一つは地下鉄です。手稲、それから清田、二つの延伸の住民からの要望が、清田は昔からですけども、手稲は最近も報道がありました。これについて市役所としてはどのような考え方をお持ちなのか、延伸は全く考えていないのか、その辺のところを聞かせていただきたいと思います。私は清田、手稲に個人的な意見は特にもっていませんけれども、地方都市の公共交通というのは残念ながら採算面で厳しいのも事実で、闇雲に赤字にするわけにはいきませんが、地方都市の公共交通が都市の生活環境の向上だとか都市の発展に与える影響は大変大きいと思います。採算面だけで考えるのではなくてそれは都市のコストだという考え方も必要だと思っているものですからお聞きいたします。

それからもう1点、これはかなり個人的な体験なんですけれども、私は市電の沿線に住んでおりますが、市電の電停のところですけども、道路が市道なのか道道なのかちょっとわかりませんが、市電の電停のちょうど横のところが、車で通るとよくわかるんですけどもかなり傾斜になっているんですね。雨水の排水のためなんだろうかと、かなり傾斜になってます。しかも電停がありますので狭くなっているんですけども、夏場は特に問題ないんですけども冬場に車に乗ってますと、路面が完全に凍ってしまいますと車のブレーキで止めているのに滑っていくというのがありまして、さすがに歩道に乗り上げるほどではないですけども、ブレーキをかけているのに滑っていくのはかなりひやりとするというのを私何回か経験したことがございます。あの部分ちょっとどうにかならないのかなと個人的な体験からお聞きいたします。

○今野会長 ありがとうございます。以上2点について交通局の方からよろしく申し上げます。

○芝井交通事業管理者 地下鉄の延伸についてですけども、地下鉄の延伸を考える部署はまちづくり政策局というところなので、私の口から判断・コメントは申し上げられないんですけども、ただ経営という観点からすると、先ほども地下鉄の中で御説明申し上げましたけれども、今なお1,900億円あまりの累積赤字がある非常に厳しい経営状況であること、それから今地下鉄を掘るといった事業費についても全国的に非常に高騰していて、1 km掘るのに400億円くらいかかるといったようなことがありますので、経営サイドから見ると

厳しいのではないかと考えております。

それから市電の電停のところについてなんですけれども、路面電車は軌道法という法律があって道路の上を走らせてもらっているんですけれども、道路自体の管理は市が行っております。それなので不親切な回答ですけれども、道路の角度や歩道については道路整備の考え方となります。なお西線の方は今拡幅をやっておりまして、拡幅が済んだところについては路面がかなりきれいな状況になっていて、路面の傾きも適切といったらおかしいですけれども、標準的なものになっているのではないかと思います。

以上です。

○今野会長 ありがとうございます。佐藤委員よろしいでしょうか。

○佐藤委員 はい。

○今野会長 ありがとうございます。ほかいかがでしょうか。

○紺野委員 市民委員の紺野です。担当の部会ではないんですが質問してもよろしいですか。

○今野会長 はい。

○紺野委員 交通事業についてお聞きしたいことがあります。7ページ左下のクレジットカード決済によるタッチ決済に関連してなんですけれども、首都圏の鉄道会社ではタッチ型の改札機からQRコード決済の改札機に順次入れ替えていくという報道がありました。改札機の入替えは今後全国的にそういう動きになると思うんですけれども、改札機の入替えとなると機械からシステムから色々費用が大きくなるかと思うんですが、今現在市の方ではQRコード決済の改札機の導入についてどのようにお考えなのかお聞かせください。

○芝井交通事業管理者 ありがとうございます。

カードのタッチ決済はまず来年の春から試験的にやるということで、お話がありました首都圏のQRコード決済っていうのは、今まで紙の券を磁気券といって磁気で判断してるんですけれども、それをQRコードにしてそれを読んでやってくっていうのがJRを中心としたところがやる内容でございまして、その他にあらかじめ企画券みたいなものをスマホで買ってそのQRコードを表示してやるっていうのは例えば東急鉄道さんとか一部の事業者さんがもう既に取り入れているという状況になります。私どもの方はまだQR決済まではやることは決めておりませんので、まずは外国人のお客様などに対して利便性を高めるためにタッチ決済を始めて、それからその動向や他事業者の様子を見ながらQRコード決済についても検討していきたいと考えています。

以上です。

○今野会長 ありがとうございます。他いかがでしょうか。

○山田委員 下水道のことで伺いたいと思います。年間有収水量が前年同期から3%増の見込みということで御説明をいただいたんですけれども、590万t増となっているんですが、一方で水道の方は0.5%の増という形で、もちろん一対一になるとは考えてませんが、ちよ

っと差が大きいなどというような印象を受けましたので前年度に比べて令和6年度年間有収水量が下水道の方で590万t増加されるということの見込みの具体的な理由がありましたら教えていただきたいと思います。よろしくをお願いします。

○小泉下水道河川局長 御質問ありがとうございます。下水道河川局長の小泉でございます。

3%増を見込ませていただいたのは、昨年下水道の使用料から比べて今回大体3%の増加を見込んだので、それに合わせて有収水量も3%見込んだという形でございます。

○今野会長 ありがとうございます。他いかがでしょうか？

○白井委員 地下鉄駅の件で一つお聞きします。去年も今年も大変暑い夏でした。南北線にはいわゆるシェルターの中の駅がいくつかございます。南平岸駅とか、澄川駅とか自衛隊前駅といった駅ですね。私も時々利用するのですが夏の晴れている日はホームにいと大変に熱く、このような状態に苦情は寄せられていないのでしょうか。一部の人たちは、暑いのでシェルターの中のホームでは車両を待ってられないので、その下の改札口付近で待っていて、電車が来てから初めて慌てて階段を登っていくという、やや危険な状態になっているほどです。そういった点では、例えばシェルター内の駅のホームの一部に冷房を備えた小部屋を作るとか、そういった何か対策をとるお考えはないのでしょうか。これからは暑さは年々厳しくなっていくと思うのですけれども。

○芝井交通事業管理者 ありがとうございます。暑さについての苦情はございます。特に過去はそれほど多くなかったんですけども、ここ二、三年、急激に増えてきたというふうに感じています。

その中では主に地下鉄車内の暑さということなんですけれども、御指摘のありました南北線の高架部の暑いということの御指摘もいただいているところでございます。

聞かれてないんですけど車両についてちょっとお話をさせていただきますと、実は冷房は全路線付いてないです。それは特に南北線については高架部を中心にして重量制限、あんまり重たいものを載せられないということで今の車両で重たさがかなりきつい状況に来ているのでなかなかちょっと厳しいという状況であります。それから駅についても基本的に冷房はしてございません。全駅やるということもなかなか経営的に厳しいかなというふうに思いますけれども今御提案ありました、高架部の駅の一部をっていうようなことは検討課題だなというふうに思います。大変貴重な御意見ありがとうございます。

○今野会長 ありがとうございます。他いかがでしょうか。

○武村委員 武村です。水道と下水道に質問をさせていただきます。

これから若しくはこれまでも人口が減っていくという中で、配水管の長さ、延長であったり、下水道管の延長であったりという形で、いただいた数字は伸びているようなのですけれども、これは閉じるところもあり、伸びるところもあり、その差し引きでもって1年間で伸びましたって話なのか、それともひたすら伸ばしてって傾向にあるのかというところが知りたいと思っています。それは、今後管理費を下げっていくためにも、閉じ

ていくということが一つの作戦としてあるのかなと思う中で、今はどのような計算になっているのか知りたいです。

○今野会長 よろしく申し上げます。

○村瀬水道事業管理者 水道事業管理者の村瀬です。

水道の配水管ですけれども、若干伸びてはいます。それは、廃止した管もありますけれども、伸びた方が多いのでプラスになってます。伸びた理由としては、最近はそんなに多くないのですが、開発行為と云って要は未利用地が利用地が変わる、住宅・マンション・商業施設等ができる、そこに事業者の方で配水管を道路の下に整備をして、それが水道局に寄付されるということになります。

そういうことで配水管はそういった開発行為が起きて寄付行為が起きる程度によって伸びていきます。

一方で廃止する管はそれほどないのですが、これからの人口減少ということを見据えますと、やっぱり過大なインフラを持つというのはよろしくない、水道局としては管をなくすというよりは、入れ替え更新をするときに管の口径を少し細くすることを行っています。それによって細い管の方が、経費がかからないということもありますし、それほど大きな管が必要ないのに大きな管を入れる必要はありませんのでそういった対応をしております。一方で人口が減るといっても急激に減るというわけではなく、微減で進んでいくということ、それから先ほども御説明したように事業用の水量は増えているので、これは事業活動、それから観光客といったところで伸びてくる部分もありますので、人口が微減なのですが水量は今、一旦同じぐらいと見込み、そこの見合いの中で計画的に更新していく考えでございます。

以上でございます。

○小泉下水道河川局長 下水道河川局長の小泉でございます。

伸びたという部分では、今水道事業管理者の方からお話がありましたけれども、それは下水道についても同じでございます、開発行為等々ございましたら、その中で整備してもらったものの寄付を受けるという形で延長の数値が伸びているということでございます。また、例えば、新設道路ができるなどの場合も周りの土地利用に合わせて、新たに管を入れるということはあるんですけれども、そういう整備でも、延長の数値が伸びると理解していただければと思います。

廃止の部分では、現段階で廃止したというところはありません。将来的にこれからどんどん使われなくなるような、あるエリアでまとまって使われなくなるような状況が生じてくれば、そういうことも起こりうるかもしれませんが、現段階ではまだそういうことはございません。

○今野会長 ありがとうございます。時間の都合上岡田委員の御質問で最後にさせていただきます。

○岡田委員 路面電車の御説明に関してなんですが、上下分離してっていうお話があった

と思うんですけど、もう少し詳しく説明していただきたいと思います。その際に、今までは一体として運営されていたと思うんですけど、どちらか外注されたってということなんでしょうか。それとも市の組織の中で運用してるってということなんでしょうか？そのあたりを含めて御説明ください。

○芝井交通事業管理者 ありがとうございます。

軌道整備事業を上下分離にしたということですが、近年全国的に見てもですね、公営の交通について上下分離をしている事例ってのは結構出てきているということが一つございます。

今話題の宇都宮のライトレールトレインとかですね、ああいうものも一般会計で作って運営は事業者がやるということになっています。

私どもがやるということは、一つは民間のノウハウの導入と自由度の高い経営を運営においてやってほしいなということが一つございます。

もう一つはやはり経営健全化というか、トータルとしての経営健全化というそういったことを狙ってやっているものでございます。

担い手としては先ほど交通事業振興公社というふうに申し上げましたけれども、札幌市の出資団体でありまして、そこに我々は下の方を所有してお貸しするので、使用料を払ってもらって運営をしてもらうという、そういうことをやっているということでございますが、答えになってるでしょうか。

○岡田委員 経済性というかそういう観点もあると思うんですけども、リスクっていうのがないのかなっていうふうに思ってお聞きしましたが、他地域の事例でもいいんですけど、特段その問題点っていうのはなさそうなんでしょうか。

○芝井交通事業管理者 リスクというものは、上下一緒でもあるんですけどもやはり経営母体が分かれていると、コミュニケーションの問題とか、例えば何かがあったときにプレスリリース1個やるにしても情報伝達なり意思疎通をうまくやっけていかなきゃいけないという問題は御指摘の通りあろうかと思えます。ただ先ほど申し上げましたけれども、私どもが出資をしている会社でありまして、人的関与についても行っている会社でありますので、意思疎通、それからいわゆるガバナンスというんでしょうか、そういった面については遺漏なくやっていきたいと考えております。

以上であります。

○岡田委員 ありがとうございます。

○今野会長 まだまだ委員の皆様から御質問御意見あろうかと思えますけれども、時間の都合上これにて質疑を終了させていただきたいと思えます。

本日の総会については以上でございますけれども、改めて全体を通じて何か御質問御意見ございますでしょうか。

よろしいでしょうか。

それでは、以上をもちまして、本日の審議を終了させていただきます。

今後の部会の具体的な日程や開催場所については、その都度、各部会の事務局から各委員にお知らせさせていただきます。

事務局から何か御連絡事項はありますでしょうか。

○山本総務局長 特に連絡事項はございません。

8. 閉 会

○今野会長 それでは、本日は、これをもちまして閉会とさせていただきます。

長時間にわたりどうもありがとうございました。

以 上